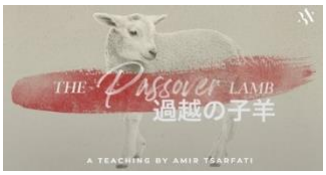

Amir Tsarfati

[過ぎ越しの子羊]

今夜は、過越し（すぎこし）の小羊についてお話したいと思います。
理由の 1 つは、これから聖餐式を行うため、もう一つは、聖餐式は、どこからともなく始まったものではないためです。これはずっと古く、また、ユダヤ文化に深く根差したものなのです。私はいつも言うのですが、聖餐式は、フォーカスが「影」から「実体」へと移ったものです。それでも、実体の意味全体を掴むためには、影を理解しなければなりません。面白いのが、私は、子羊や、神の小羊、神、小羊、罪などについて聖書を調べていたのです。私たちは皆、これらについて語りますし、それらについて学び、血と罪と子羊を繋げてみると、私たちには、全て辻褄が合うように見えます。しかし、ずっとさかのぼってみると、創世記 4 章に既に登場するのです。しかも、同じ章に「羊」と「罪」が両方とも初めて出て来ます。「羊」という言葉も、「罪」という言葉も、それ以前にはどこにも見つけられません。ところが、両方の言葉が 4 章で出て来ます。覚えていらっしゃいますか？アダムとエバの二人の息子、カインとアベル。アベルは羊を飼う者で、カインは地を耕す農夫でした。

ティントレット画「カインとアベル」

そして、アベルがささげたものを神は受け入れられ、カインがささげたものを神は退けられました。明らかに、神にささげられた物質そのものが問題ではありません。神は、心からささげられていない犠牲には、興味を持っておられませんから。私たちの行い、全てにおいてです。もし私たちが、心からそれを行なっていないなら、何十億ドルというお金を神にささげたところで、何の意味もありません。全て重要なのは、私たちが何をささげるかではなく、私たちの心の意図です。どのようにささげるか。興味深いことに、創世記 4 章 2 節にはこうあります。

2　**…アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。**
（創世記 4:2）

聖書の中で、「羊」という言葉が初めて出て来るのはここです。
「羊を飼う者」
そして、興味深いのが、その後の 6 節～で

6　**そこで、主は、カインに仰せられた。**
　「なぜ、あなたは憤っているのか。（怒りがあるのが分かります。）**なぜ、顔を伏せているのか。**
7　**あなたが正しく行なったのであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行なっていないのなら、**
　罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。
（創世記 4:6～7）

「罪」と呼ばれるものが、初めて出て来ました。それは、私たちが治めることのできるものです。しかし、明らかにカインには無理だったのです。それは、彼が、罪を治めるのを可能にするものが、何も与えられて

いなかったからです。そして興味深いのが、羊は受け入れられたのに、罪が、カインのささげものが受け入れられるのを阻んだのです。

そして、私たちの知っている「子羊」と、人間に対する「神の愛」について、次に聖書に出て来るのは、同じ書の 22 章です。創世記 22 章はお馴染み、アブラハムが息子イサクを、モリヤの山に連れて行く話です。彼は、神の命令に従うところです。あの時、彼にとって、それは考えられないことでした。しかし彼は、自分がどれだけ神のことを信じているか、どれほど彼を愛しているかを証明するために、それを行なおうとし、イサクをささげようとしました。しかしイサクは、明らかに、何が起ころうとしているのかを理解していませんでした。彼は、父と歩きながら不思議に思っていたのです。
「神に何かをささげに行くのに、その“何か”はどこにあるんだろう？」

8　**アブラハムは答えた。「イサク。神ご自身が全焼のいけにえの羊を備えてくださるのだ。」**
（創世記 22:8a）
そして、面白い形で、神がアブラハムに答えられるのです。

12　**御使いは仰せられた。「あなたの手を、その子に下してはならない。その子に何もしてはならない。今、わたしは、あなたが神を恐れることがよくわかった。あなたは、自分の子、自分のひとり子さえ惜しまないでわたしにささげた。」**　（創世記 22:12）

ここで、私はたびたび考えるのです。イサクは、イシュマエルの後に生まれました。しかしここでは、御使いがこのように言っています。
「あなたの手を、その子に下してはならない。その子に何もしてはならない。今、わたしは、あなたが神を恐れることがよくわかった。あなたは、自分の子、自分の“ひとり子”さえ惜しまないでわたしにささげた。」

レンブラント画
「イサクの犠牲」

約束の子。
感動的なのは、ヘブル語の聖書を読むと分かりますが、ここで使われている『ひとり子』と全く同じ言葉が、ヨハネの福音書 3 章 16 節で使われているのです。

16　**神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。…**
（ヨハネ 3:16a）

全く同じ言葉です。これらは、「子」「唯一の」で同じ言葉です。このように、羊を備えてくださるのは神です。私たちがいくら神を喜ばせようとして、たくさんの犠牲をささげ、賛美、礼拝をいくらささげても、最終的に究極のささげ物は、私たちの内から出て来るのではなく、神から私たちに与えられるのです。神ご自身が羊を備えてくださる。そしてそれが、彼の愛と情熱を世に示す、神のやり方なのです。まず、神ご自身が、死にかけている世に手を伸ばし、彼らの問題に対する「唯一の解決策」を与えるのは、神のやり方です。私はいつも、福音（ゴスペル）をゴスピル（ピル＝　錠剤）と呼んでいますが、皆さんは死にかけていて、それがこの錠剤を飲むと、永遠のいのちを得るのです。それだけです。たとえ死んでも、もう死なない。分かりますか？ また、私たちの仕事は常に、他の人にその錠剤を与えることです。彼らがそれを受け取るかどうかは、あなたの責任ではありません。しかし、その錠剤を彼らに渡すのは、私たちの責任です。―― ゴスピル。

アーメン？

さて、神の小羊についてお話しましたが、すでに創世記の中で、罪と子羊に関するヒントが与えられています。それから、神が小羊を備えてくださるというところに、死にかけている世に対する、神の愛のしるしがあるのです。では、2,000 年前のエリコとは反対側の地域に移りましょう。そこには、ヨハネという男がいました。皆さんは「バプテスマの」と呼びますが、彼が“バプテスト派”であったとは思いません(笑)。でもここだけの話、噂によれば、彼はユダヤ教徒でした。彼は人々に洗礼を授け、悔い改めを命じていました。そして突如、彼は、イェシュア、イエスが彼の目の前を歩いているのを目にします。そして、彼の口から一番に飛び出したのは、

29 **…「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。**
（ヨハネ 1:29b）
ここで皆さんは思うでしょう。

「そうだな。罪を取り除くいけにえ、罪を取り除く小羊は、
贖罪の日、ヨム・キプールに使うものだし、それは納得だ。」
違います。
贖罪の日について読んでみれば、贖罪の日というのは、イスラエルに与えられたものです。
イスラエル国家、イスラエル国家の罪です。
しかし、ここは

「見よ。“世”の罪を取り除く神の小羊。」

全世界です。
もし全世界のためならば、イエスは特定の人種や、特定の地域には制限されません。そこでよく考えてみると、この記述に当てはまる唯一の小羊は、過越しの子羊です。思い出してみれば、御使いがイスラエルの民に こう言っています。
「傷のない一歳の子羊を取り、エジプトを出る前に四日間、家に入れなければならない。それから、それを屠ってから、その傷のない子羊の血を二本の門柱につけると。主に遣わされた御使いが、血のある家を通り過ぎる。」
（出エジプト 12 章参照）
別の言い方をすれば、これは、あなたがユダヤ人だとか異邦人だといった問題ではなく、子羊の血があなたの家の門柱に塗られているかどうかの問題なのです。これが、ヨハネがイエスを見た時に言った「神の小羊」です。誰でも、この小羊の血がある者は、どこに住んでいようと、誰であろうと、どこに生まれようと、どんな宗教であろうと、誰でも神の小羊の血を信頼する者は、その小羊の血が、その人の心の門柱についているなら、裁きの訪れの時には、過ぎ越される。すごいですね！

次に、この過越しの小羊について、よく考えてみると、全てに辻褄が合って来るのです。実に感動します。
出エジプト記 12 章 13 節によれば、

13 **あなたがたのいる家々の血は、あなたがたのためにしるしとなる。わたしはその血を見て、あなたがたの所を通り越そう。わたしがエジプトの地を打つとき、あなたがたには滅びのわざわいは起こらない。**
（出エジプト記 12:13）

だからこれが「過越し」と呼ばれるのです。イエスは、過ぎ越すための理由です。
イエスが過越しです。
過越しは、ユダヤ人だけのものではありません。
よく考えてみてください。

ここにいる皆さんの一人一人が、イエス・キリストを信じているなら、裁きは皆さんの上を過ぎ越すのです。皆さんは、毎日過越しを祝っているのです。ヨハネが「神の小羊」と言った時、彼にはそれが見えたのです。
その過越しの小羊が、あなたの家にはいますか？　あなたの心、あなたの人生に。毎日？　私たちが過越しを祝う時、もしくは、私たちが聖餐に与る時、私たちは新しいことを学ぶためにではなく、もうすでに成された事を思い出すために、それをするのです。過越しに関して一つ、興味深いのはユダヤ人たちは、エジプトを出るまで、彼らの暦には何もなかったのです。主はモーセに言われました。出エジプト 12 章 2 節

2　**「この月をあなたがたの月の始まりとし、これをあなたがたの年の最初の月とせよ。**
（出エジプト記 12:2）

つまり、この瞬間から、ユダヤ人の歴史が暦の中に記録される。そして、この出来事が最初となる。そこであなたがたは、毎年これを祝うのだ。毎年、あなたがたは子どもたちにこれを教え、そして国中で、わたしがあなたがたをエジプトから連れ出した日のことを覚えなさい。そしてそれから 2,000 年後、二階の広間の過越しで、イエスが弟子たちに言っておられます。

19　**わたしを覚えてこれを行いなさい。**
（ルカ 22：19）

そうです。覚えるのです。私たちは覚えておかなければなりません。忘れてはいけない。もし神が、常に世界中の人と、それからイスラエルの民に警告されている事が一つあるとすれば、
「忘れるな」。
「あなたがたをエジプトから連れ出したのは、わたしだ。」
「あなたがたを荒野から導き出したのは、わたしだ。」
「あなたがたを約束の地へと導き入れたのは、わたしだ。」
「あなたがたのために戦ったのは、わたしだ。」
「あなたがたを支えているのは、わたしだ。」
「忘れてはいけない！」
私たちは毎日、それを思い出さなくてはなりません。大事なのは私たちではなく、大事なのは、神なのです。
私たちは、自分一人では強くなく、完璧でもありません。神から離れては、私たちには何にも出来ないのです。
しかし、キリストにあって、私たちには何でもできるのです。アーメン？
ということで、覚えるということが分かりました。これは、ある特定の出来事を、一緒に記念していて、私たちは神の素晴らしさを互いに思い出し合うのです。そして、ユダヤ人のエジプトからの脱出と、罪びと一人一人の、暗やみから、主の驚くべき光の中への脱出、その両方を表明するのです。

さて、ヘブル語を知るユダヤ人というのは、物凄い利点です。正直言うと、この言葉を知っていれば、物凄く多くの事が理解出来るのです。皆さんが天国に行った時には、あちらでヘブル語の授業を受けると思いますよ　笑　。皆さんが頑張っている間、私はコーヒーでも飲んでいますが　笑　。といっても、スターバックスじゃありませんよ、念のため　笑　。ただ、皆さんに言いたいのは、ヘブル語を知ると、その中には非常に多くの宝物が隠されているのです。一つ 、簡単な例を言えば、「ささげ 物」のヘブル 語 は コルバーン קָרְבָּן 、 これは、「近づく」とか「側に」　と同じ語源です。　その親密感が、御言葉の中にあるのです。　彼らは、ただ子羊を取って、10 分もかからず屠ったのではありません。
彼らは、子羊を自分たちの家の中に、第一の月の、10 日目から 14 日目まで、4 日間入れるのです。皆さん、小さな子羊を撫でたことはありますか？ 最も無害な動物です。

［餌を食べている子羊たち］

何をしても、どこへでもついて行きます。あの小さな動物の中には、悪が一切見当たらない。それを見て、仲良くなって情が湧いてきます。良い動物ですよ。ちょっと臭いですが（笑）それでも可愛い。それと 4 日間、皆さんのお子さんたちが一緒に遊ぶのです。メ～と泣く声を聞き、それにも慣れて、4 日も経てば最高の相棒ですよ。とてもかわいい動物です。罪がない。それが 4 日目。あなたの手で屠られるのです。興味深い。あなたと子羊との間に、親しい親密な関係がない限り、犠牲に感謝はしません。イエスは来て、10 分後に十字架で死んだのではないのです。彼は、この地上を3年間歩かれたのです。3年間、彼は皆に示されたのです。彼がパンを裂かれたとき、確かに彼は、種なしのパンでもあるのだ、ということを —— 彼には罪がなかったからです。しかし彼らは、それを調べ、見なければならず、それは彼らが、彼と時間を共に過ごしてのみ、分かるのです。 主が ささげられた、犠牲とささげものを理解するためには、その親密さは非常に重要です。
詩篇 145 篇 18 節には、こうあります。

18 **主を呼び求める者すべて、まことをもって主を呼び求める者すべてに、主は近くあられる。**
（詩篇 145:18）

「主は近くあられる」は、「カロブ」「コルバーン」で、同じ言葉です。主を呼び求める者のすべてに、主は近くあられます。 しかしそれは、彼らがある宗教に属しているから 主を呼び求めるというのではなく、それが彼らの義務だから 主を呼び求めるというのでもなく、「まことをもって主を呼び求める者」です。アーメン？ 見てください。これ以上明確にしようがありません。「まことをもって」主を呼び求める者、真に心から、です。
イザヤ 29 章 13 節には、主が実に厳しい言葉を、イスラエルの民に向けています。彼らが、物凄く宗教的で、神ご自身の御言葉よりも ラビを高く崇めていたためです。聖書には、こうあります。

13 **…「この民は口先で近づき、くちびるでわたしをあがめるが、その心はわたしから遠く離れている。彼らがわたしを恐れるのは、人間の命令を教え込まれてのことにすぎない。**
（イザヤ書 29:13）
彼らはユダヤ人です。しかし神は言われます。
「ただ口先の言葉、くちびるだけで、わたしの側に来ても無駄だ。あなたの心は遠く離れている。」
もし、神が求めておられるものが、一つあるとすれば、それは私たちの心です。
もし、神が求めておられる、ささげものがあるとすれば、それは心からささげる犠牲です。彼は、彼が心から愛している、ひとり子 を犠牲にされたのですから。このように、この親密さが続くことが分かります。今から、皆さんが理解するために、3 つのことについて考えてみたいと思います。
2000 年前、 2 つの「過越しのセダー」が祝われていました。一つは イエスが弟子たちと祝っていたもの、もう一つは、皆がそれぞれの家族と祝っていたものです。これは過越し、伝統だから、皆で集まって食卓を囲もう！と。過越しのすべての目的は、イスラエルの子どもたちがエジプトを出た時、神がどういうことをしてくださったのかを、子どもたちに教えるためです。 ですから、これは家族中心、皆、子どもたちと座って、子どもたちに質問させ、それに答えるのです。全ては、父と子の交わりが中心で、家族全員が食卓を囲むのです。 それが 2000 年前、イエスが、彼らと過越しを祝うために、二階の広間を見つけて、過越しの準備をするようにと言われたとき、弟子たちは頭の中で何を思っていたのだろう、と考えます。それは奇妙でした。それは、家族なしに祝う、初めての過越しでした。彼らは、二階の間に上がりました。男たちが食卓を囲んだのです。机の上の U 字型マットに もたれかかる、低い机です。 周りには、子どもも女性も誰もいません。だれも「伝統の質問」をしません。 イエスは、彼が真の過越しになる前の晩、彼らに何かを見せるために、彼らを召集されたのです。

伝統は伝統だ。人は、家族全員が食卓を囲むことを期待するが、わたしは、家族とは何か、あなたがたに再定義しよう。過越しが何であるか、わたしがあなたがたに再定義しよう。 そして、影から実像へと移ろう。
驚きです。あの同じ祭りの時期に、二つの過越しが祝われていました。
聖書には、その日の事がこう書かれています。
ヨハネ 19 章 14 節

14 **その日は過越の備え日で、時は第六時ごろであった。**
（ヨハネ 19:14a）

つまり彼は、前の晩に弟子たちと食事をした、ということです。他の世が、子どもたちと食卓を囲んで座っている時に、彼は実際の過越しとなったのです。また、私たちが“イエス”と呼ぶ人物が、二人いたことはご存知ですか？ 今でも覚えていますが、私が初めて新約聖書を手渡されたとき、—— 皆さんにはお話したと思いますが、私は旧約聖書を通して、主に立ち返ったのです。—— 私は、新約聖書を持っていませんでした。どちらにしろ、私が知らなければならなかったのは、旧約聖書でしたから。
「新約聖書なしで、どうやって信じたんだ？！」
と よく聞かれますが、私はいつも言うのです。
「申し訳ないけど、イエスは、新約聖書からは ただの一度も教えたことはありませんよ。」
（笑） 当時はまだ、書かれてもいなかったのですから。ともかく、私が言いたいのは、新約は、旧約の中に隠されているのです。そして旧約は、新約の中で明らかにされています。しかし、それらが分かるのです。そこら中にありますから。ともかく、私はヘブル語の新約聖書を渡されて、マタイ 27 章 17 節の話まで来た時に、驚いたのです。

17 **それで、人々が集まったとき、ピラトは言った。**
「おまえたちはだれを釈放してほしいのか。バラバ・イエスか、それともキリストと呼ばれているイエスか。」
（マタイ 27:17 新改訳 2017）
ヘブル語ではこう書かれています。

「イェシュア・バラバ か、それとも イェシュア・ハマシアハ か。」

私は「何？！」と思ったのです。
それから、自分で調べてみると、初期のギリシャ語の手書きの福音写本では、彼の名前はイエス、これは一般的なユダヤ人の名前でした。

「“イエス・バラバ”か。それとも、キリストと呼ばれるイエスか。」

だから彼は、こんな風に尋ねたのです。

17 **…「おまえたちはだれを釈放してほしいのか。バラバ・イエスか、**
それとも キリストと呼ばれている イエスか。」
（マタイ 27:17 新改訳 2017）

そしてもちろん、皆はバラバの方を求めたのです。彼らは、そちらの方が安心できたのです。バラバという名前は「父の子」という意味ですから。
ここにイエスがいて、彼は父の子だ。
我々は、彼で構わない。
人間はいつでも、自分が安心できる方を選びます。

彼の方が、ずっと安心出来たのです。イエスが生きて、周りにいると、彼らは自分の罪深さを感じます。

イエス・キリスト（左）と
イエス・バラバ（右）

イエス・バラバが周りにいるなら、素晴らしい！　彼を釈放しろ！　明らかに、彼らは預言を成就させているとは、理解していません。　ともかく、私が言いたいのは、今日の今日まで、人は自分の好きなイエスを選びます。　そして、真の聖なる神の御子には近づきません。アーメン？　興味深い事に、二つのセダーがありました。二人のイエスが、人々の前にいましたから。一人はバラバ、一人はキリスト。そして、二頭の子羊がありました。通常の神の子羊は、
出エジプト記 12 章 5 節によれば、

5　**あなたがたの羊 は傷のない一歳の雄でなければならない。…」**
（出エジプト記 12:5）
そして、第一ペテロ 1 章 18～19 節には、イエスについて書かれています。

18　**ご承知のように、あなたがたが父祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、…**
19　**傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。**
（第一ペテロ 1:18 19）

普通の子羊では、決して足ることはありませんでした。
毎年、それをささげなければなりませんでしたから。
それから初めて、地球上の歴史上でただ一度だけ、神の御子が私たちに与えられ、神の小羊として、
あの十字架の上でささげられました。
罪の赦しのために、彼の血を流されたのです。
全世界のため。永遠に。
では、私たちはどちらを選びますか？
伝統ですか？ 伝統の子羊、皆が毎年するものですか？
それとも、私たちは唯一の方の、ただ一度を信頼しますか？
こういった質問は、問われるべきです。セダーであり、何であっても、皆さんはどのような祭りに興味が
ありますか？
卵を探し、ウサギがいたるところにいるものですか？
買い物に没頭するものですか？
ストレスが溜まって、心臓発作になりそうなもの？
キリストの誕生を祝う代わりに？
私たちのフォーカスはどこにありますか？
人間の伝統ですか？ 世が、皆さんにさせようとするものですか？世が、皆さんに求めるように祝いますか？
それとも、神の家族と、もはや影ではない、実像を囲んで祝いますか？

あなたの祝いたいセダーを選んでください。
あなたの従いたいイエスを選んでください。
群衆が求めるイエス？ その生き方でも、大丈夫だと感じられるから？ そうです。

そのイエスの名前は “父の子”です。

しかしそれは、天におられる私たちの父ではありませんよ。 名前は正しい、しかし、違う人物です。

それとも、狭い道をあなたに与える方を選びますか？ しかしそれは、永遠のいのちへの道です。
それから、どの子羊を犠牲にささげますか？ 私たちが主の御前にささげたいのは、どの子羊ですか？
毎年ささげても、まだ足りないもの？ キリストの前兆であるべきもの？
それとも、キリストご自身ですか？
一つの永遠の いけにえを ささげて後、神の右の座に着かれた方。
私たちのために、永遠に執り成してくださっている方。
これらは、私たちが自問すべき質問です。
2000 年前、二階の間でイエスが弟子たちと座っておられたのです。彼らは何を思っていたのだろうと、私はたびたび想像してみます。
2000 年後の私たちは、聖餐の意味を知っています。私たちには、ぶどう酒と種なしのパンが何を意味しているのかが、分かります。 しかし彼らにとっては、全く新しい事だったのです。 何百年、いやそれ以上に、ユダヤ人たちは影を祝って来たのです。それが突然、彼が来られ、そして釘を刺された。

「今からは、実物を祝うのだ。」
「このパンは、あなたがたのために砕かれた、わたしのからだです。」

皆さんがこれから飲むのは、血に似ています。
彼らは、イエスがもうすぐ犠牲になることすら知らなかったのです。
その翌日、イエスが十字架にかかる事を、彼らは理解していなかったのです。
イエスは、全てをご存知です。
イエスを死なせたくなかった者がいたとするなら、それはサタンです。
考えてみてください。ペテロが、「イエスは生ける神の御子、キリストです」と告白したとき、イエスは彼に言われました。

17 **「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。」**
（マタイ 16:17）

「わたしが、メシアであると教えている、ラビの教えはない。メシアがどんな者で、誰なのか、彼らが教えるメシア観は、わたしがここで示しているのとは、全く違う。」
ところが、数節後には、イエスが間もなく終わることについて伝えると、ペテロは
「いいえ」と、イエスを叱りそうでした。
「そんな風に言ってはいけません！」
「あなたは死にません！」
そして、イエスはどう答えられましたか？

23 **…「下がれ。サタン。…」**
（マタイ 16:23）

「わたしを死なせたくないのは、サタンだけだ。それは、わたしの死が何であるか、わたしの血が何であるか、死が、わたしを止めることは出来ない事を、サタンは理解しているからだ。」

「わたしはよみがえる。そして、その血には、永遠の力がある。」
世界中で、永遠の永遠に。
これが、世の罪を取り除く、神の小羊です。

私たちは、私たちが小羊を知っている、ということを、毎日喜ばなければなりません。ここに座って、イエスが死んだことを、陰気な顔をして悲しむのではなく、―― もちろん、彼は死にましたよ。 しかし、なんと、彼はよみがえりました！ 彼は生きています！ ！（歓声！）それから、キリストの死さえ、必要だったのです。皆さん、想像出来ますか？
もし、2000 年前に、ユダヤ人たちがイエスを受け入れていたら？ 言っておきますが、私たちは絶対に皆さんとはシェアしませんよ（笑） しかし、神は全てをご存知です。そして聖書には、ローマ書 11 章にこうあります。

11 **…彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。**（ローマ 11:11）
アーメン？

2016 年 1 月 1 日 初回公開

【写真出典一覧】
・ティントレット画「カインとアベル」：1550 1553 年 伊 ヴェネチア アカデミア美術館蔵
・レンブラント画「イサクの犠牲」：レンブラント・ファン・レイン（オランダ）1635 年 露 エルミタージュ美術館蔵
・ヘブル語の表記：牧師の書斎 レビ記の瞑想 全焼のいけにえ（焼き尽くす献げ物）
・餌を食べている子羊たち：You Tube 「なごみいろ①子ヒツジ誕生」神戸新聞社ニュース 2013.3.21
・イエス・キリストとイエス・バラバ：映画「パッション」の一シーン。

← スマートフォンなどのカメラで読み込むと、このメッセージを YouTube で見られます。
≪リンク先： https://youtu.be/fbuODdJehLA ≫

メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel 2021.03.24
https://beholdisrael.org
ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル ▶
https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ